

機関番号：32660

研究種目：基盤研究C

研究期間：2008～2010

課題番号：20530140

研究課題名（和文）アジア地域アーキテクチャーの形成とアメリカ要因

研究課題名（英文）The formation of the stratified structure of Asian regional architecture and the United States

研究代表者

大庭三枝 (MIE OBA)

東京理科大学・工学部・准教授

研究者番号：70313210

研究成果の概要（和文）：本研究プロジェクトでは、アメリカや東アジア諸国の政府機関や国際機関の資料、新聞記事及び雑誌記事を下に、「アジア地域アーキテクチャーAsian regional architecture」の形成に関するデータベースの構築を行った。そして、それらの資料、記事及びデータベースの分析により、アジアにおけるアメリカの地位がアンビバレントであったことが、アジアにおいて様々な地域制度を発達させ、アジア地域アーキテクチャーの重層的構造が形成されたとの暫定的結論を導くことができた。

研究成果の概要（英文）：Under this research project, a database on the formation of Asian regional architecture is constructed by using documents on regional policies of US government and East Asian countries' governments, documents by regional institutions and articles of newspapers and magazines on a process of development of regional institutions in Asia and on US involvement in it. Analyzing these documents, articles and the database resulted in the tentative conclusion that a stratified structure of Asian regional architecture has been constructed because the ambivalent position of the United States in East Asia stimulated development of various regional institutions in this region.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成20年度	1,300,000	390,000	1,690,000
平成21年度	1,200,000	360,000	1,560,000
平成22年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：国際関係論

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：地域主義、東アジア、東南アジア、アメリカ、ASEAN、アジア太平洋、アイデンティティ、地域認識

1. 研究開始当初の背景

1980年代半ば以降より、世界各地において地域主義が活発化した。アジアにおいても、特に1989年のAPECの発足以降、上記のような様々な地域枠組みが今日に至るまで数多く形成され、そこでは安全保障・

政治、経済、社会・文化など多岐にわたる地域の問題についての対話や協議、諸協力が行われるようになった。

このような動向に伴い、アジアにおける地域主義についての研究も1990年代半ば以降国内外で急速に発展し、本研究代表者

も地域主義理論の研究とアジアおよびアジア太平洋における諸地域主義の実証研究に従事してきた。まず、1989年のAPECの発足に至るまでの「アジア太平洋」地域概念の形成過程を、日本とオーストラリアの政策担当者や知識人らの「地域」認識の変遷と実際両国が採った地域主義政策に着目しつつ明らかにした。またその研究と並行し、ASEAN+3を中心とする東アジア地域主義の発展や、アジア協力対話ACD、ベンガル湾多分野技術・経済協力イニシアティブBIMSTECなど日本ではあまり注目されていない様々な類型の地域枠組みの発展についても研究を進めていた。

これらの研究を踏まえ、本研究代表者はアジアにおける諸地域主義やそれに立脚した地域枠組みは、個々に分析するよりもむしろ重層的構造を持つ一つの複合体として分析する視点が必要ではないか、と考えるに至り、またなぜそのような重層的構造が形成されるに至ったかについて関心を持つようになった。

同時に、アジアにおける様々な地域主義の形成と発展におけるアメリカの強い影響力に、主に二つの側面から着目するようになった。一つは、アメリカの対アジア認識とそれを元とするアジアに対する政策の影響力である。アメリカを包含するアジア太平洋地域主義（APECやARF）の展開については、アメリカの姿勢や政策がその発展を大きく左右したことについては多くの研究が指摘している。また、東アジア経済協議体EAEC構想やアジア通貨基金AMF構想に強く反対したことが、両構想の挫折の大きな原因の一つであることも、すでに多くの研究で明らかにされている。

もう一つが、アジア諸国の政策担当者らの対米認識が、彼らの地域主義政策や地域主義についての議論を大きく左右しているということである。すなわち、各国の政策担当者らの対米観、特にアメリカの地域における安全保障／政治上、経済上の覇権や影響力を肯定的に見るのか否定的に見るのか、あるいはそれが今後も継続していくとみるか、または長期的な低下傾向にあるとみるか、が彼らに取ってのより好ましい地域主義のあり方についての判断を大きく規定している。さらに、この意味での対米観は、各国間のみならず各国内においても多様である。しかし、この問題の包括的な研

究はほとんど進んでいなかった。

本研究代表者は、このような多様な対米観が、自国が属するのに好ましい「地域」とはどのようなものか、についての様々な議論を生み出していることが、アジア地域アーキテクチャーの重層的構造をもたらしている大きな原因の一つである、という仮説を立てるに至った。

2. 研究の目的

近年アジアにおいて、様々な地域枠組みが協力を推進している状態を一括して「アジア地域アーキテクチャーAsian regional architecture」と称するようになってきている。これは、アジア太平洋協力APECや、ASEAN地域フォーラムARFに見られるアジア太平洋地域主義、ASEAN+3という形で制度化された東アジア地域主義、そして東アジアサミットEASに見られる拡大東アジア地域主義、東南アジア諸国連合ASEANによる東南アジア地域主義を中心として構成されている。そしてこれらの諸地域主義は併存しつつ発展し、緩やかに相互に関連していることによって、全体として重層的な地域構造を呈している。

本研究は、このアジア地域アーキテクチャーの重層的構造の形成に「アメリカ要因」が大きく作用していたということを明らかにしようとするものである。すなわち、一方で覇権国アメリカの対アジア認識、対地域主義認識とそれを基礎とした諸政策がアジアの地域主義のあり方に大きなインパクトを与えてきたこと、他方でそれらを受けたアジア諸国の対米認識やそれを元にした様々な地域主義や地域アイデンティティのあり方を巡る議論が多様であり、それらを元に各国が実際に採った地域主義政策も多様であったこと、これらがアジア地域アーキテクチャーの重層的構造をもたらしたことを明らかにすることを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は、ASEAN+3が始動した1997年前後からEASが発足する2005年前後に至る時期を対象とし、またアメリカのみならず日本、中国、韓国、ASEAN諸国といった様々な国の地域主義政策や各国の政策担当者の認識に焦点を当てるものである。よって、政府の報告書などを中心とする資料収集、新聞や雑誌あるいは新聞雑誌記事データベースからの情報収集を元に、アジア

地域アーキテクチャーの生成過程に関する基礎的なデータベースを作成しながら研究をすすめた。また、アジア地域アーキテクチャーや諸地域主義、諸地域枠組みについての先行研究、また各国の地域主義政策やその際の政策担当者らの認識についての先行研究についてのデータ集積も行い、分析に反映させた。

4. 研究成果

一次資料、二次資料の収集、それらを元にしたデータの集積及びそれらの分析により、以下のことが改めて確認された。

アメリカは、アジア域外に存在する国でありながら、アジアに軍事的、政治的そして経済的に大きな影響力を行使してきた。そうしたアメリカの特殊なポジションは、アジア諸国がアメリカを含むアジア太平洋という地域概念の必要性について認識させることになった。そのことが、アジア太平洋地域概念の下での地域制度である APEC や ARF を生み出す要因になった。そして、APEC や ARF に対する期待は、その地域制度の実効性に疑義が付されていることから薄らいではいるものの、アジア太平洋という概念自体の重要性は薄らいでいない。それは、FTAAP 構想がその実効性について疑義が付されながらも APEC の場で議論が継続していることなどから見て取れる。アジア太平洋という地域概念の存在意義は、アメリカが現実にはまだ影響力を行使する中で、アメリカを含まない地域制度が果たして実効的かどうかについて各国内のエリート間で評価が分かれていることから来ている。

他方、アジア諸国間には、アジア諸国のみで地域の問題について協議する必要性についての共通認識も存在し、その認識はアジア通貨危機とそのときのアメリカの対応で強められた。それは、東アジアという地域概念の重要性についての認識を高め、その地域概念を基盤とする ASEAN+3 の展開へと繋がった。EAFTA 構想も、その文脈から捉えられる。また、特にこのアメリカを加えない形の制度化は、この地域における自国の存在の重みを誇示しようとする中国が後押ししていた。

しかしながら、アメリカとの安全保障上の紐帯やその経済上の重要性を特に意識する日本やシンガポールは、東アジア概念を人種や文化に立脚した概念から、別のインプリケーションを持つ概念に転換しようとした。特に日本のエリートたちは、アメリカへの配慮から、東アジア地域概念を人権や民主主義と普遍的価値に立脚した概念に変革しようという志向性を有していた。また彼らは、中国の存

在感を相対化する必要も認識していた。こうした一部のアジアにおけるあるべき「東アジア」概念についての認識が存在したことは、EAS のメンバーに民主主義国であるオーストラリア、ニュージーランド、インドを加えたことの大きな理由の一つである。

このように、アメリカをどのようにアジアの制度化の中で位置づけるべきか、ということについては、各国内で様々な意見が存在していた。そのことは、アジアにおいて様々な地域制度が並行して発達するという現象を生み出す大きな規定要因の一つであったと考えられる。すなわち、アジアにおけるアメリカの地位がアンビバレントであったことが、アジアにおいて様々な地域制度を発達させ、全体として重層的構造を呈する「アジア地域アーキテクチャー」が形成されたと暫定的に結論づけることができる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ①大庭三枝「重層的な地域制度構造における『アジア太平洋』海外事情、2010年10月号、21-38 ページ (査読無し)。
- ②大庭三枝「アジア太平洋における制度化と日本外交」『国際問題』2010年1・2月合併(588)号、2010年、48-58 ページ (査読無し)。
- ③大庭三枝「グローバリゼーションの進展とアジア地域主義の展開」『国際政治』第158号、2010年、75-88 ページ (査読有り)。
- ④大庭三枝「東アジアにおける「ハブ」としてのASEAN: 域外諸国との関係とその変容」『アジア研ワールド・トレンド』No. 170, 2009年11月 (査読無し)。

[学会発表] (計4件)

- ①大庭三枝「アジア太平洋における地域主義の動向と展望: 2000年代以降の動向を中心に」第4回政権変動研究会、九州大学伊都キャンパス、2011年1月21日。
- ②Oba, Mie, "Global Economic Crises and Emergence of New Security-Economics Nexus in Northeast Asia" The Second Workshop on The Economic Security Nexus in Northeast Asia, IGCC-UT Project, International House of Japan, Tokyo, Japan, August 23, 2010 (ペーパー有り)。
- ③大庭三枝「世界経済危機に対するアジアの対応策と国際金融ガバナンス: 「地域レベル」

での対応と「グローバルレベル」での対応」
日本政治学会平成21年度大会、日本大学、
東京、2009年10月9日(ペーパー有り)。

④Oba, Mie, “The International Economic Crisis and Regional Governance in Asia: in comparison with the outcomes of the Asian Financial Crisis”, Economic-Security Nexus in Northeast Asia Workshop by University of Tokyo and University of California, with funding from the D. and Catherine T. MacArthur Foundation’ Asia Security Initiative, Sanjo-Kaikan, University of Tokyo, Japan, July 4th 2009 (ペーパー有り)

[図書] (計3件)

①大庭三枝「アジア太平洋地域主義の特質」
渡邊昭夫編『アジア太平洋と新しい地域主義の展開』千倉書房、2010年。

②大庭三枝「アジア太平洋における広域経済圏形成についての展望：TPPの位置づけとその意義」『アジアにおけるFTAのあり方：FTAネットワークの拡大と深化』日本機械輸出組合報告書、2010年、1-17ページ。

③Oba, Mie “ASEAN’ s External Relations and the Changing Regional Structure in East Asia:Can ASEAN Stay in the “Drivers’ Seat” ? ASEAN Group Study Report, March 2010, Japan Institute of International Affairs, pp.107-118.,

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大庭 三枝 (MIE OBA)

東京理科大学・工学部第一部・准教授

研究者番号：70313210

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：